

## 4-②. 新型コロナウイルス対応関連の動き

— コロナの影響を受けたNPOの緊急支援、調査・提言、拠点運営など知恵と工夫で対応。

### 1. NPO・市民活動支援に関する動き

#### (1) 新型コロナウイルス緊急支援基金「私と地域と世界のファンド：みんなおなじ空の下」を設置

新型コロナウイルスの影響で、財政的に厳しい状況となっているNPO・市民活動団体支援のため、(特) 関西NGO協議会、(一財) 泉北のまちと暮らしを考える財団、リタワークス(株)と4団体共同で設立した。寄附募集にあたっては、(一社) 全国コミュニティ財団協会が全国47都道府県で設置する「47 コロナ基金」のしくみを活用して、7月末までに7,960,448円の寄附を集めた。8月12日に助成団体を公募し、下記の団体に助成を行った。



#### ■支援団体一覧（35団体・50音順）

アイキャン、アジア協会アジア友の会、いくの学園、大阪教育文化振興財団、大阪YWCA、小山田小学校区子ども食堂 チャイルドシート、カウンセリングスペース「リヴ」、関西いのちの電話、ここ、KADOMA中学生勉強会、子どもアドボカシーセンターOSAKA、子どもネットワーク ワルツ、CPAO JAE、すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク（RINK）、ダウン症ファミリー総合支援めばえ21、団楽長屋プロジェクト、チャイルド・ケモ・ハウス、D×P、テラ・ルネッサンス、トゥギャザー、日本国際飢餓対策機構ハンガー・ゼロ、日本クリニックラウン協会、日本国際民間協力会NICCO、PHD協会、フェア・プラス、FAIR ROAD、Future Code、フリースクールはらいふ、Bokk Jambaar、ママコミュ！ドットコム、み・らいず2、みんなの未来がいたく団、やんちゃまファミリーwith、RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）

#### (2) 『新型コロナウイルス感染症 NPO緊急支援サイト』

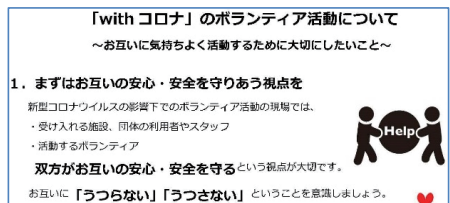
新型コロナウイルス感染症の影響を受けて困っている人のために「今すぐ」できることを新規に開設した。新型コロナウイルスで困っている人に何かしたいという声を受け、パートナー登録団体の「寄附」「寄贈」「ボランティア募集」の情報を掲載し、支援者から団体へ直接連絡をするかたちをとった。物品の寄贈のうち2件は、協会が直接マッチングをおこなった。

#### (3) 「新型コロナウイルスの影響下での市民活動に関するメッセージ」の掲載

「新型コロナウイルスの影響下での市民活動に関するメッセージ」をホームページに掲載するとともに、SNSで情報を拡散した。

#### (4) 「ボランティア受け入れのポイント」「『with コロナ』のボランティア活動について」を公開

新型コロナの影響下でボランティア受け入れをしようという施設・団体向けの受け入れのポイントをまとめた「新型コロナウイルス影響下でのボランティア受け入れのポイント」と、「with コロナ」の中でボランティア活動を考えている人向け『『with コロナ』のボランティア活動について～お互いに気持ちよく活動するために大切にしたいこと～』をまとめた。



### 2. 調査・提言に関する動き

#### (1) 「新型コロナウイルス感染症が市民活動に及ぼす影響に関する調査」を実施

NPOの状況とニーズの把握を行うことを目的に、ボランティアリズム研究所の岡本仁宏運営委員長が主体となり、大阪NPOセンター・きょうとNPOセンター・しゃらく・市民活動センター神戸・ひょうごコミュニティ財団・関西大学法学部坂本治也研究室の協力を得て、京阪神の1,024のNPOに対して緊急調査を行い、168団体から回答を得た。調査結果報告はホームページに掲載して広く公開。

#### (2) 「パートナー登録団体への困りごとアンケート」を実施

パートナー登録団体への困りごとアンケートを2度実施した。1回目は4月に実施し、23団体からの回答を得た。その結果を踏まえ、前述の「新型コロナウイルス感染症 NPO緊急支援サイト」を開設した。2回目は12月に実施し、必要に応じて団体と意見交換を行った。

**（3）「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」に賛同・提出**

NPO議員連盟に提出した「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」に賛同した。要望書は当協会も含め、全国47都道府県の247の団体・個人（団体：186組織、個人：61名）の賛同者とともに提出された。

（一財）泉北のまちと暮らしを考える財団、（特）SEINとともに呼びかけ団体となり、近隣の15のNPO支援センターとともに、「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」を大阪府知事に提出した。

協会が呼びかけ団体となり、大阪市内に事務所を有する4つのNPO支援センターとともに「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」を大阪市長に提出した。



大阪府知事へ提出



大阪市長へ提出

**3. 市民活動スクエア「CANVAS谷町」での対応**

管理・運営しているCANVAS谷町（大阪市中央区）では以下のような対応を行った。

- ・緊急事態宣言中の夜間・週末を中心とした、利用がない日・時間の臨時休館を導入した。
- ・緊急事態宣言中の会議室の新規受付中止（原則として）、キャンセル料を無料対応した（利用希望の団体は開館して対応）。
- ・会議室の定員を見直した（物理的距離の保持）。
- ・利用団体への感染予防に関する対応を依頼した（利用者の体調・連絡先等の把握等）。

**4. 協会内での動き**

協会内では以下のようなことを行った。

- ・緊急支援寄附を募集し、1,751,800円（104件）の寄附を集めた。
- ・「新型コロナウイルスに関連する動きまとめ」をホームページに掲載した。
- ・緊急事態宣言に伴う職員の在宅勤務導入、ボランティア相談のメール・ウェブ会議ツールの優先利用、主催行事の開催見合わせ、事務所における感染予防対策、職員の健康管理等の対応を実施した。
- ・【会員限定】「コロナに負けるな！オンライン交流会」を開催。

新型コロナの影響下で会員の皆さんが日々の生活や仕事、活動にどのような影響があったかを聞き、市民・隣人としてどうできるかを語り合った。世界中の会員が参加し、オンラインならではの交流がもてた。

日程：2020年6月12日（金）・19日（金）・26日（金）

参加者：1回目16人、2回目19人、3回目12人（話題提供者含む）

- ・【パートナー登録団体対象】オンラインサロン「ウイズコロナ、アフターコロナにおける取り組み」「ウイズコロナ、アフターコロナでも使えるICT」をテーマに開催した。詳細は第3章①、NPO運営支援・基盤整備事業で報告。

